

反転

ムカデやイモムシのように、うねうねと
視界の手前を横切る者がいる

聞くに堪えぬ音域の移動
びし、びし、びし

湿った闇が口づける
ああ、世界はどこに存在する？

そいつを踏み潰したい
しかし、その体液が飛び散る様は吐き気がする

生を構成する蛍光のような軟体物
皮膚と、その下に蠢くゲル状のもの

闇が放射する光が直進する
ああ、その指し示す先にも闇は存在するのか？

寒い
気が遠くなるほど、寒い

私の指は壁を探している
這うための壁を探している

その指に触れてくるおぞましいもの
それを潰した時のつめたさと強烈な臭気

だが、それこそが生だ
我々の創造物を嘲笑する生なのだ

寒い
ここは寒い

(2005.4.16)